

令和5年度 学校評価（自己点検自己評価） 最終評価

1. 教員による学校評価（自己点検・自己評価）



図1 令和5年度 教員による自己点検・自己評価最終

表1 令和5年度 教員による学校評価（自己点検自己評価）最終

評価カテゴリー	令和5年度 中間評価	令和5年度 最終評価(昨年比)	令和4年度 最終評価
I. 教育理念・教育目的	2.7	2.8(→)	2.8
II. 教育目標	2.8	2.7(→)	2.7
III. 教育課程経営	2.5	2.5(→)	2.5
IV. 教授・学習・評価過程	2.4	2.4 (0.1 ↓)	2.5
V. 経営・管理過程	2.5	2.5 (0.1 ↑)	2.4
VI. 入学	2.5	2.3 (0.4 ↓)	2.7
VII. 卒業・就職・進学	2.3	2.3 (0.2 ↑)	2.1
VIII. 地域社会／国際交流	2.2	2.3 (0.2 ↑)	2.1
IX. 研究	2.3	2.3 (0.2 ↑)	2.1
平均	2.5	2.5 (0.1 ↑)	2.4

*評価基準 3:十分満たしている 2:満たしている 1:改善の余地がある 0:改善すべきである

1. 全体的結果（図 1、表 1 参照）

令和 5 年度最終結果は、各カテゴリー 2.3～2.8 点（平均 2.5 点）であり「概ね満たしている」という結果であった。「評価 0：改善すべきである」と評価した教員はいなかった。

令和 4 年度最終評価と比較すると、カテゴリー「IV. 教授・学習・評価課程」「VI. 入学」の 2 つのカテゴリーにポイントの低下が見られたが、「V. 経営・管理過程」「VII. 卒業・就職・進学」「VIII. 地域社会/国際交流」「IX. 研究」の 4 つのカテゴリーが 0.1～0.2 点上昇した結果となった。

2. 項目別の評価結果の分析と対策

1) 「I. 教育理念・目的」（小項目 8）「II. 教育目標」（小項目 7）

令和 4 年度最終評価と同点であった。新カリキュラムは令和 4 年 4 月から運用開始しており、新カリキュラム申請のために教育目標、教育内容等検討しているため高い評価となった。

2) 「III. 教育課程経営」（中項目 7. 小項目 31）

令和 4 年度最終評価と同点であった。小項目「教育理念・教育目的の達成に向けた一貫した活動」は 2.1 点であり他の項目に比べ低い結果となっている。研究授業に向けた検討会および研究授業の実施、実習準備・まとめなどの企画について、教員全員で検討しているが全体として一貫した活動をするための体制づくりが必要である。

⇒実習指導や学内での演習等、一貫した活動ができるよう教員会議等で検討継続する。

また、小項目「教員の授業準備のための時間確保」は 2.0 点であり、令和 4 年度最終評価と比べ 0.6 点上昇した。後期 1 月以降、学生による実習評価など WEB 入力へ変更したことにより、教務助手の業務負担が軽減したことや教務助手へのタスクシフト・シェア、教務・事務助手の業務整理をおこなうなど教員の業務改善を行ったことによるものと考えられる。

⇒業務改善の継続および教員職員間の協力体制・連携を強化し支援する。

3) 「IV. 教授・学習・評価課程」（中項目 4. 小項目 15）

令和 5 年度中間評価と同点、昨年度最終評価より 0.1 点低下した。

(1) 講義・演習教育について

①令和 4 年度入学生（2 年生）は新カリキュラムが適用され、思考力・判断力を強化するために事前課題学習をもとにした授業の展開を強化している。各専門領域の授業では、他科目や方法論で学んだ知識を活用し、事例患者に対する看護場面の展開の演習を 15 時間実施した。例えば、精神看護方法論Ⅲ（看護展開）では、統合失調症の患者の事例を用い、急性期の精神症状（妄想・幻覚）に対する対応を学生が看護師役となり実践した。シミュレーション場面をもとに意見交換することで、患者の言動の意味を振り返り、患者が安心できる対応について学ぶことができた。

⇒看護展開で学んだ知識・技術を 3 年次の実習で活かせるよう実習教育に繋げる。

③教育の質の向上のために、例年、研究授業は実施しているが、今年度は夏季休業期間を利用し、研究授業に向けた検討会を実施した。新カリキュラム科目の看護展開を担当する教員は初めての科目に戸惑っていたが、検討会により目標の明確化や効果的な授業方法を見出すことにつながった。

⇒次年度の講義は 3 科目のみであり、全教員が研究授業できないが、実習場面の指導を教材化した検討会など教育の質の向上に向けた取り組みを検討する。

(2) 実習教育について

①実習指導の円滑化と質的向上をはかるため、実習内容や指導方法の検討および意見交換を実施するなど、実習施設との連携を強化継続した。昨年度に引き続き、実習指導者会議で「臨床判断能力向上のための学生の気づきを解釈に繋げる指導」の学習会を企画し、実習指導者

が「学生の気づきを解釈に繋げる指導」に取り組んだ事例を共有し、実習指導方法について理解することができた。指導者からは、「自分の思考を言語化する時に、学生により伝わりやすい指導ができるようになった」「他の人の事例を聞くことで自分にはなかった視点での学生へのアプローチに気づくことができた」「気づきをみつけること、その気づきに対しての解釈を伝えることを意識して関わるのが重要であると感じた」などの反応があった。

⇒次年度も実習指導者と連携し、効果的な実習教育ができるよう取り組みを継続する。

- ②学生個々に応じた支援のために、実習中および終了後の実習状況をクールごとに情報共有や指導方法の確認を継続しておこなった。また、留意すべき事項が発生した場合は、看護部とも共有し、臨地でも指導の強化を依頼した。その結果、継続した実習指導につながった。

⇒次年度も継続する。

- ③実習中の事故分析に基づく安全教育や安全対策に取り組むことを前期からの課題としていたが、実習中は学生のヒヤリハット報告が少なかったことも影響し、臨地実習における事故分析（評価 1.9 点）や安全教育・安全対策の取り組み（評価 2.2）について低い評価となった。今年度は、卒業前の看護技術演習にて、臨床で起こりやすい与薬について事故防止を含めた演習を実施した。⇒次年度は、ヒヤリハット（0 レベル）の報告件数を増加できるよう指導するとともに、医療安全教育に取り組む。

（3）ICT 活用に向けた授業設計

九州内の国立病院機構附属看護学校 5 校が連携し、「地域連携」「多職種連携」「臨床判断」「シミュレーション教育」のテーマで授業内容、教授方法の検討が 2 年目となった。2 月には「臨床判断」チームが 5 校の学校をリモートでつなぎ、胃がんの患者の事例をもとにアセスメント、ベッドサイドでの気づき、解釈、看護について意見交換するメンタルシミュレーションをおこなった。学生は真剣に取り組む、各校から様々な意見を聞きさらに学びを深めた。⇒次年度以降は、専門領域のグループを編成し、各校の授業で活用できる仮想都市の事例を作成し、授業実践に繋がれるように取り組む。

4) 「Ⅵ. 入学」（小項目 3）

当校は令和 5 年度学生募集を停止しているため、入試の選抜方法の見直しや検討をおこなっていないことから、令和 4 年度最終評価と比べ 0.4 点低下していると考ええる。

⇒入試選抜方法の見直しや検討ができないため、次年度は評価対象外とする。

5) 「Ⅶ. 卒業・就職・進学」（小項目 5）

令和 4 年度最終評価と比べ 0.2 点上昇した。しかし、看護実践能力到達状況分析の小項目は評価 2.0 点であり低い結果であった。卒業時に達成すべき看護技術の到達度の評価ができていないことが原因として考えられる。卒業前看護技術演習では、学生が実習で経験することが少ない与薬について、学生 1 人 1 人技術確認をおこなったが、できるようになるまで確認することができていない。

学生の就職先である母体病院や NHO 病院、県内施設との情報共有は継続して実施した。

⇒次年度は卒業時の技術到達状況の分析に取り組む。

6) 「Ⅸ. 研究活動」（小項目 3）

令和 5 年度最終評価結果 2.3 点であり昨年と比べ 0.2 点上昇した。今年は 3 名の教員と教育主事が看護学生対象「臨床判断を行うプロセス」、実習指導者対象「臨床判断の育成に関する実習指導者の関わり」についての研究に取り組んでいる。全てを業務時間内に終えることはできないが、業務調整により時間内に研究活動に取り組むことができている。

⇒今後も研究日の確保、研究活動に取り組めるよう、業務改善および教員間の協力体制、連携強化を支援するとともに、時間単位の研究活動や申請期限などを柔軟にしていく。

2. 令和5年度 学生満足度評価

学生満足度評価最終（令和4年度との平均比較）

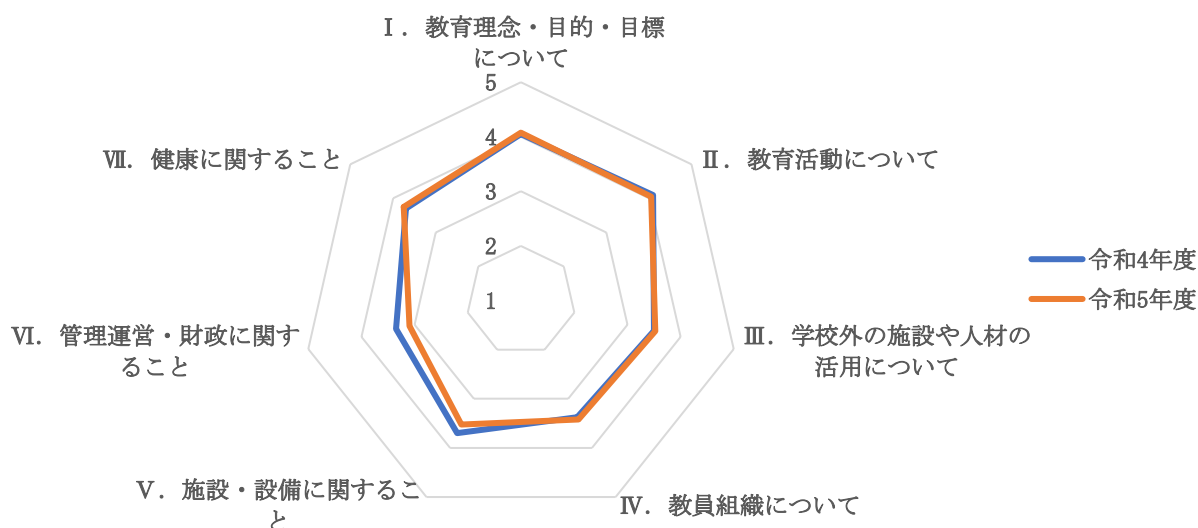
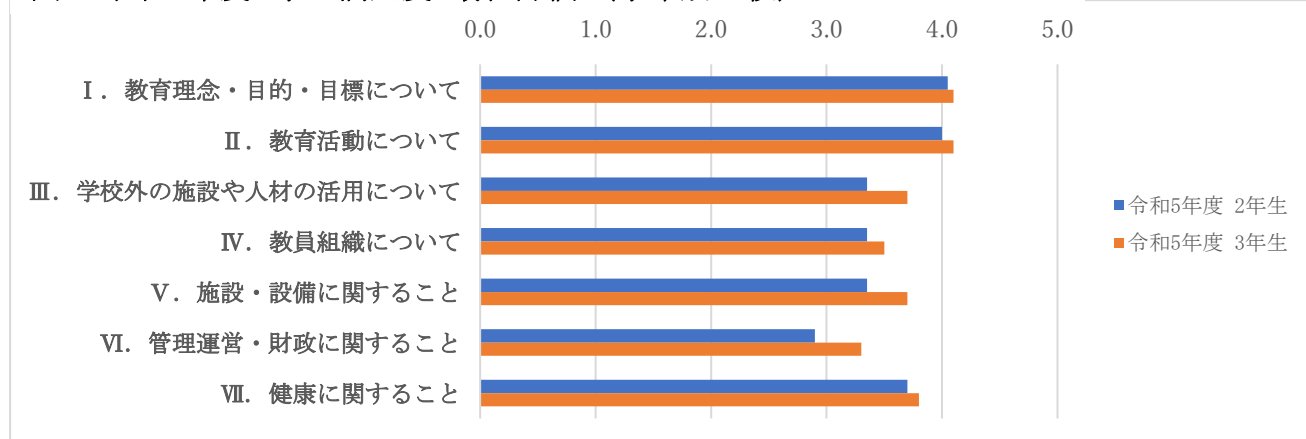


表1 令和5年度 学生満足度 最終評価結果（令和4年度と令和5年度の比較）

評価内容	令和4年度		令和5年度		平均	
	2年生	3年生	2年生	3年生	令和4年度	令和5年度
I. 教育理念・目的・目標について	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1
II. 教育活動について	4.2	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1
III. 学校外の施設や人材の活用について	3.3	3.7	3.4	3.7	3.5	3.5
IV. 教員組織について	2.9	3.9	3.4	3.5	3.4	3.4
V. 施設・設備に関すること	3.7	3.7	3.4	3.7	3.7	3.5(0.2↓)
VI. 管理運営・財政に関すること	3.1	3.6	2.9	3.3	3.4	3.1(0.3↓)
VII. 健康に関すること	3.5	3.9	3.7	3.8	3.7	3.8
平均	3.5	3.8	3.5	3.7	3.7	3.6

*評価基準 5:大いにそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまり思わない 1:まったく思わない

図1 令和5年度 学生満足度 最終評価（学年別比較）



全体的結果

全7カテゴリーの平均は3.6であることから、「概ね満足している」と考える。昨年度（令和4年度）の最終評価と比較すると、「V. 施設設備に関すること」「VI. 管理運営・財政に関すること」の2カテゴリーが0.2～0.3ポイント低下した結果となった。「評価1：まったく思わない」と評価した学生はいなかった。

項目別評価

1) 「II. 教育活動について」

- ・2,3年生ともに学内での講義、演習や実習に関する評価は、満足度が高く4.1ポイントであり、昨年度と同様の結果となった。
- ・学生が計画的・主体的に学習を進められるように、後期教育計画ガイダンスや国家試験ガイダンスを実施した。学生の意見では「シラバスを活用して勉強内容を決めたり計画的に勉強することができた」「多重課題であったが何とかできた」「分かっているのに、時間がなくて結局実行できていない」「自分の努力がもう少し必要だと思った」などがあった。
- ・実習については、「自分が困った時やわからない時に的確なアドバイスをもらうことで、よりよい介入を行うことができた」「相談や質問に気軽に答えて下さった。適切な指導をいただくことができた」など肯定的な意見がある一方、「指導する教員や指導者によって言うことが違うという指導があって困った」「指導を受ける時間が十分に取れなかった」などの意見もあった。
⇒今まで以上に、実習指導者と連携した実習指導を行う。
- ・実習について、2年生の自由記載では、「実習後の看護の関心」について、「看護は楽しい」「看護師に早くなりたい」「患者さんからありがとうなど言ってもらえることがとても嬉しかった。患者さんのために看護したいという思いが強くなった」などの意見が多く聞かれた。一方で、「自分が本当に看護に興味があるかわからなかった」「看護の難しさを知った」「実習は好きではない」「実習は記録の量が多いだけで行える看護が少ない」などの意見も聞かれた。
⇒実習記録については、学習内容や実習期間などにより見直し、スリム化を図っている。また、学生の中には患者におこなう直接的な援助（清潔、排泄等）のみが看護であると思っている者もいるため、看護とは何かについて学生が正しく認識できるよう指導する。
- ・3月に看護観発表会を実施。2年生全員が自己の看護観を発表し、他者の看護観を聴き自己の看護観を深めることができた。
⇒臨地実習では、指導者との関係や看護師としての態度など貴重な学びがあり、患者への看護を通して確実に看護観が構築できているため、学びの深い実習ができるよう教員間、指導者との連携を継続する。

2) 「IV. 教員組織について」

- ・最終評価は2年生3.4ポイント、3年生3.5ポイントであり、平均は令和4年度と同ポイントとなった。学年別で見ると、令和4年度と比較すると2年生は0.5ポイント上昇、3年生は0.4ポイント低下した結果となった。また、ポイントだけを見ると、「概ね満足している」結果ではあるが、学生の自由記載では、各学年多くの意見が聞かれた。
- ・自由記載の内容では、前年度および前期に比べると教員へ相談しやすくなったという回答もみられたが、「話しかけづらい」「連携が悪い・教員間の情報共有ができていない」「指示が遅い」「時間を守らない」「教員間の関係が悪い」等の記載が多くあった。
⇒学生へのタイムリーな指示、約束を守るとは改善する必要がある。学生と教員の関係については、教育的態度を前提に置きながらも誤解を与えないような対応を教員一人一人が意識していく。

3) 「V. 施設・設備に関すること」

- ・最終評価は2年生 3.4 ㊦、3年生 3.7 ㊦であり「概ね満足している」という結果であったが、令和4年度と比較し 0.2 ㊦であった。
- ・この項目は、看護技術演習用教材や情報科学室、図書室、自習室等の利用・整備について聞いている。蔵書が古いこともあるが、図書室での文献検索や学習を促しているが、スマートフォンでの学習や、自宅での学習が多いこともあり活用していないことが影響していると考えられる。
⇒調べる力を育成するためにも、今後も積極的に図書を用いた課題の提示や指導を継続する。

4) 「VI. 管理運営・財政に関すること」

- ・最終評価は2年生 2.9 ㊦、3年生 3.3 ㊦であり、2学年ともに中間評価と比較し 0.2～0.3 ポイント低下している。また、令和4年度と比較して 0.3 ㊦の低下が見られた。
- ・この項目は、学校の教育運営（希望図書や教材購入等）に学生の意見が取り入れられているかどうかを聞いている。学生の自由記述がないため詳細は不明であるが、学生の意見が取り入れられている事を実感できないことが考えられる。但し、Microsoft フォームスを利用したアンケートや学生による実習評価の WEB 入力、自治会総会資料の WEB 配信などについては肯定的な意見が多く聞かれた。
⇒閉校を前に新たな施設・設備の計画はないが、不具合があるものについては速やかに修理等の対応を継続する。